



(株)ヨロズ環境レポート (2013年度)

1. 会社概要

- ・ 事業の概要 : 自動車部品、農業機械部品、生産設備の開発設計・製造
- ・ 所在地 : 神奈川県横浜市港北区榎町3-7-60
- ・ 創立時期 : 1948年4月1日
- ・ 従業員数 : 411名 (グループ連結 6、261名)
- ・ ISO14001取得時期 : 2009年11月 (株)ヨロズグループ取得)
- ・ 敷地面積 : 10,680㎡
- ・ 建屋面積 : 9,502㎡
- ・ ヨロズグループ

(株)ヨロズ本社 (YC), ヨロズグローバルテクニカルセンター (YGT C),
ヨロズ広島事務所

連結子会社

(株)ヨロズ栃木, (株)ヨロズ大分, (株)ヨロズ愛知, (株)庄内ヨロズ
(株)ヨロズエンジニアリング, (株)ヨロズサービス

海外子会社 (連結子会社)

ヨロズ アメリカ, ヨロズ オートモーティブテネシー社, ヨロズ オートモーティブノースアメリカ社, ヨロズ メヒカーナ社, ヨロズ オートモーティブグアナファト・デ・メヒコ, ヨロズ オートモティバド ブラジル社, ヨロズ タイランド社, ワイ・オグラオートモーティブ, ヨロズエンジニアリングシステムズタイランド社, 广州萬宝井汽车部件有限公司, 武汉萬宝井汽车部件有限公司, ヨロズJBMオートモティブ タミル ナドゥ社, ヨロズ オートモティブインドネシア



2. メッセージ

ヨロズの環境への取組

当社は、世界環境保全への取り組みを重要課題の一つとして位置付け、積極的に行動し、世界の人々の豊かな暮らしに貢献することをコンセプトに取組を進めています。



ヨロズを取り巻く環境

当社は、1986年にアメリカに進出して以降、お客様の動向に合わせ、メキシコ、タイ、中国に生産拠点を開設してきておりますが、昨今はそのスピードが増してきており、2011年には、中国、インドに生産拠点を立ち上げ、2013年には、ヨロズとして初めての経験となるタイ、インドネシア、メキシコ3拠点同時立ち上げを実施しております。

新興国を中心に海外での増産が計画され、グループ全体として生産が増える一方、海外での地産地消が進み、国内生産は、2013年度は消費税増税前の駆け込み需要があったものの、徐々に減少する見込みとなっております。

こうした国内の厳しい経営環境の中にあって、弊社は、競争力の根幹をなす軽量化サスペンションの開発に力を入れております。最近の事例では、当社で開発したテーラードブランク工法による軽量化リヤビームが自動車各社に採用されております。これは、開発・生産準備部隊が栃木地区に移転し、開発から生産まで一気通貫で取り組めるメリットを活かした成果です。この開發生産効率をさらに上げるため、ヨロズグローバルテクニカルセンターの建設を行い、5月には竣工式を行いました。

ヨロズは社会から信頼されるエクセレントカンパニーを目指し、企業理念・企業ビジョンの実現を図るとともに、企業倫理の確立、地球環境への取り組みに努め、その存在価値が世界のお客様に認められるよう安定した成長を継続致します。

環境マネジメントシステムに対する取り組みとしては、法令順守、周辺地域への配慮は勿論ですが、環境へのプラスの影響となる軽量化製品を開発し、他社に真似できない競争力ある製品開発に取り組んでいます。

3. 当社の製品

サスペンションは、クルマの高性能化を実現するためのキー・テクノロジーのひとつです。「走る」「止まる」「曲がる」という重要な運動機能を支えているばかりでなく、進化するクルマの価値そのものに大きく貢献しています。ヨロズは、時代のニーズに柔軟に対応しながら、先進の開発技術を駆使し、サスペンションの主要な骨格部品となるメンバーやリンク類、複数の部品を統合したモジュール製品等を多彩に供給しております。

今では国内はもとより、海外の自動車メーカーからも「サスペンションのヨロズ」という定評を獲得するに至っています。ヨロズは単なる部品供給メーカーの領域を越え、開発を含めた自動車メーカーの良きパートナーとして、新しい時代の新しいクルマ作りに貢献しています。

リアサスペンションメンバー



フロントサスペンションメンバー



リンク、ロッド類



リアサスペンションモジュール



省エネ製品の開発

・フルカーブ成形工法のサス部品

パイプ材から板材に変更することでコスト低減と使用エネルギーの低減をはかった。

・テーラードブランク工法のサス部品

異なる板厚の鋼材を適所に配置して一体成型をすることにより、部品の軽量化をはかった。



◆基本理念

ヨロズグループの経営姿勢は、「高い倫理観と遵法精神により、公正で透明な企業活動を推進すること」を基本としている。このためには、関連法令の遵守はもちろんのこと、良き企業市民として社会的責任を果たし、全てのステークホルダー（*）からの信頼を得て、企業価値を高めることが必要であると認識し、ここにヨロズグループの企業行動憲章を定める。

1) お客様の満足と技術革新

有用で信頼性の高い製品やサービスを、安全に十分配慮して開発、提供し、お客様の満足と信頼を獲得する。

2) 法令等の遵守

日本及び海外におけるあらゆる法令、社内規定を遵守し、社会的良識をもって行動する。

3) 環境問題への取り組み

世界環境保全への取り組みを重要課題の一つとして位置付け、積極的に行動し、世界の人々の豊かな暮らしに貢献する。

4) グローバル企業としての発展

国際社会における企業市民としての責任を自覚し、各国、各地域の文化及び習慣を尊重し、企業活動を通じて地域経済の繁栄に貢献してゆく。

5) 企業情報の開示

株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、積極的に企業情報を正確かつ公正に、適時適切に開示する。

6) 人権の尊重

社員の人権を尊重し、差別を行わない。また人材育成を通じて企業活力の維持、向上を図るとともに社員の人格、個性を尊重する。

7) 公正な取引

公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。

経営幹部の責任

経営者は、自ら率先垂範し「ヨロズ（グループ）行動憲章」の精神の実現に努める。万一本憲章に反するような事態が発生した場合には、経営者自ら問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努める。また、社会にも迅速かつ的確な情報公開を行うとともに、権限と責任を明確にした上で、自らも含めて厳正な処分を行う。

5. 環境への取組



1) ヨロズグループ 環境理念

「ヨロズグループは、地球環境保全への取り組みを重要課題の1つとして位置付け、積極的に行動し、世界の人々の豊かな暮らしに貢献いたします。」

2) ヨロズグループの環境方針

1. 企業活動が環境に与える影響を的確に捉えて環境目的・目標を定め、環境マネジメントシステムの充実と継続的改善を図る。
2. 環境に関する法令、条例、協定及び要求事項を順守し、環境汚染を未然に防ぐ。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の削減に企業活動の全ての領域で取り組む。
4. 環境負荷低減型の製品づくりおよび技術開発を行う。
5. 環境に負荷を与える物質の削減に取り組む。
6. 地域社会と共生し、環境保全に関する積極的な情報交流と情報提供を行う。

3) ヨロズグループスローガン

「我々は、CSRに基づき、自然の恵みに感謝し、自然環境との調和ある成長を目指します。」

4) ヨロズグループ環境目標(国内7社)

1. ISO14001 認証の継続
2. 環境関係法令／各社管理値の順守
3. 省エネルギー：CO2排出量原単位の削減
▲1%(2013年度比)
4. 廃棄物削減：廃棄物排出量原単位
▲1%(2013年度比)
5. 3R優良事業所の認定継続(横浜地区)
6. 軽量化製品の開発の推進
7. ツーリング費用の低減10%以上
8. 規制物質を含まない材料選定とIMDSによる情報管理
9. 環境保全への参加回数 計画の100%以上
10. 「企業の環境経営度」調査報告 2014年10月

5) 省エネルギーへの取組

地球温暖化ガスの削減の取組として、中期計画（2012年から17年）で毎年1%の原単位削減（5年間：▲5%）を目標に削減活動を進めています。（2020年までは、▲1%/年削減を継続）

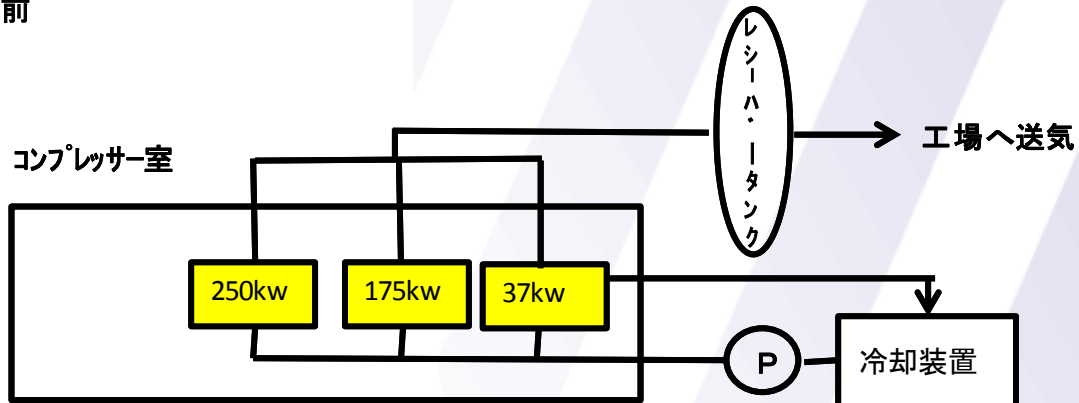
主な取組み

設備改善 : コンプレッサの統合による効率化
省エネタイプの空調機の導入
等

小改善活動 : エアー漏れの削減
休日シフト間の設備停止
等

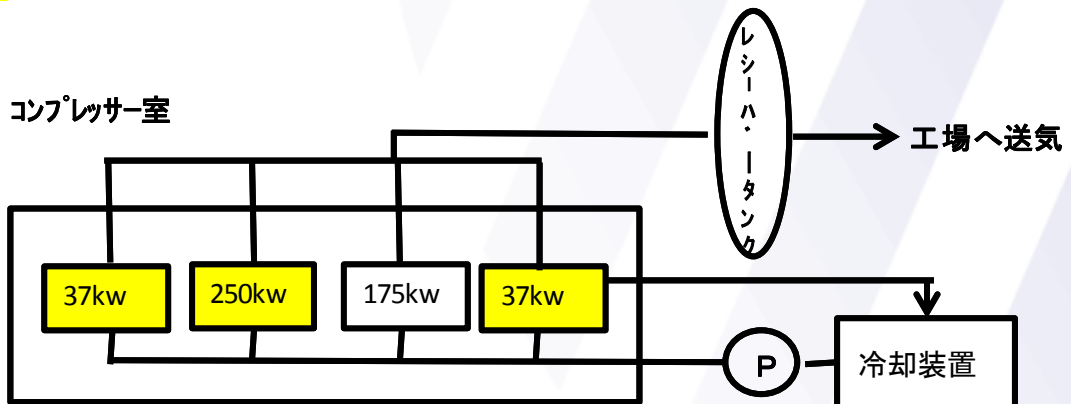
改善事例

変更前



■ : グループロール運転コンプレッサ

変更後



■ : グループロール運転コンプレッサ

37kwの空気圧縮機を移設し、175kwの空気圧縮機を停止した。

6) 再生可能エネルギーの導入

当社では、グローバルテクニカルセンターへ再生可能エネルギー設備（太陽光）の導入を実施しました。



また、当社グループ会社への再生可能エネルギーの導入の検討を開始し、14年度中には利用を開始する予定です。

7) 廃棄物リサイクルへの取組

当社では廃棄物の削減の取組として、中期計画（2012年から17年）で毎年1%の原単位削減（5年間：▲5%）を目標に削減活動を進めています。（2020年までは、▲1%/年削減を継続）
また、2006年には、廃棄物ゼロエミッションを達成し、継続しています。



8) 環境教育

環境への意識を高めることを目的に環境教育を行っています。

環境教育内容

一般教育

- ・ 環境管理者教育
- ・ 環境影響評価者教育
- ・ ISO14001内部環境監査教育

環境変化点に関する教育

- ・ 化学物質管理
- ・ 省エネルギーの取組み
- ・ 生物多様性に関する教育等



9) 環境提案の実施

毎年環境月間には、環境提案を募集し環境改善をすすめております。

年度	環境提案最優秀賞	実施内容	効果
2012年度①	開発技術センターの階段・トイレにセンサーライトを設置	開発技術センターの階段・トイレにセンサーライトを設置することで必要時のみ点灯となり、節電効果がある。	・ 電気代削減
2012年度②	支給品の荷姿をダンボールから通い箱に変更	客先支給部品（樹脂部品）の梱包をダンボールから通い箱に変更することにより廃棄物が削減できる。	・ 廃棄物削減 ・ 梱包材資源削減
2013年度	潤滑油の再生/再利用	一度使用した工作機械の摺動面潤滑油を、製作した潤滑油再生装置のフィルターにて精製処理し、潤滑油として再使用する。	・ 廃油削減 ・ 潤滑油購入量削減
2014年度	廃却梱包材の再利用	取引先から支給されるRR MBRパネルの梱包材（400ケース分/月）を廃棄せず、納入部品の梱包材としてリユースする。	・ 廃棄物削減 ・ 梱包材購入量削減

10) 地域とのコミュニケーション

ヨロズでは、地域とのコミュニケーションを考え、地域活動に積極的に参加しています。

清掃活動、生き物調査等への参加



11) ヨロズグループ ISO14001 認証取得状況
国内

事業所	認証取得日
ヨロズグループ6社 (株)ヨロズ、(株)ヨロズ栃木、(株)ヨロズ大分 (株)ヨロズ愛知、(株)庄内ヨロズ、 (株)ヨロズエンジニアリング	2009年11月09日

海外

事業所	認証取得日
ヨロズオートモーティブテネシー社(YAT)	2001年10月18日
ヨロズ メヒカーナ社(YMEX)	2002年08月02日
ヨロズ タイランド社(YTC)	2002年07月11日
ヨロズ オートモーティブ ノースアメリカ社 (YANA)	2003年07月16日
广州萬宝井汽车部件有限公司(G-YBM)	2007年10月19日
ヨロズ JBM オートモーティブ タミル ナドゥ社 (YJAT)	2013年12月09日
武汉萬宝井汽车部件有限公司(W-YBM)	2014年06月25日



登録証

登録番号：JAER0708

ヨロズグループ

神奈川県横浜市港北区榑町三丁目7番60号

管理版
複写

登録範囲：1.自動車用サスペンション部品、ペダルコンプリート、車体部品、機関部品
及び農業用機械部品の開発・製造
2.プレス金型及び治工具並びに溶接・組立機械設備及び生産用自動機械設備の製造

適用規格：ISO14001:2004/JIS Q 14001:2004

貴事業所の環境マネジメントシステムは当認証センターによる審査の結果、適用規格に適合していることが認められましたので、ここに登録します。

登録範囲の詳細

- ・株式会社ヨロズ/株式会社ヨロズサービス：神奈川県横浜市港北区榑町三丁目7番60号
- 【ヨロズグループの中核管理機能】
- ・株式会社ヨロズ栃木/株式会社ヨロズ 開発技術センター：栃木県小山市榑食田443番地
- 【自動車用サスペンション部品、ペダルコンプリート、車体部品、機関部品及び農業用機械部品の開発・製造】
- ・株式会社ヨロズ大分：大分県中津市大字田尻355番地
- 【自動車用サスペンション部品、ペダルコンプリート、車体部品及び機関部品の製造】
- ・株式会社ヨロズ愛知：愛知県名古屋市中港区知一丁目1294番地
- 【自動車用サスペンション部品、ペダルコンプリート、車体部品及び機関部品の製造】
- ・株式会社庄内ヨロズ：山形県鶴岡市花田三丁目1番20号
- 【自動車用サスペンション部品、ペダルコンプリート、車体部品及び機関部品の製造】
- ・株式会社ヨロズエンジニアリング：山形県東田川郡三日月町大字山守町川原202番1号
- 【プレス金型及び治工具並びに溶接・組立機械設備及び生産用自動機械設備の製造】

初回登録：2006年6月16日

更新登録：2012年6月16日

有効期限：2015年6月15日

一般財団法人 日本自動車研究所
東京都港区芝大門1丁目1番30号
日本自動車会館12階

発行日：2012年6月16日
発行番号：0708B-01

理事長

豊田 章男

認証センター 上級経営管理

西名 秀芳

12) (株)ヨロズ2013年度主な環境活動実績 **株式会社 ヨロズ**

トピック①

<廃棄物削減活動>

ヨロズグループの廃棄物削減： 廃棄物原単位削減活動計画を受けて、一人当たり一般ごみ排出量削減計画を作成し、廃棄物削減活動を実施した。

13年度ヨロズ 目標

- ① 廃棄物排出量原単位削減：1% 削減
- ② 一般廃棄物の削減：300g/人以下

活動の結果

目標は過達しました。

トピック②

<CO2排出量削減>

ヨロズグループでの省エネルギー：CO2排出量原単位削減活動を受けて、活動を実施しました。

13年度ヨロズ 目標

- ① CO2排出量原単位削減：1% 削減
- ② MIN値での電力契約：昨年並み
- ③ 省エネ節電（パトロール）：1回/月

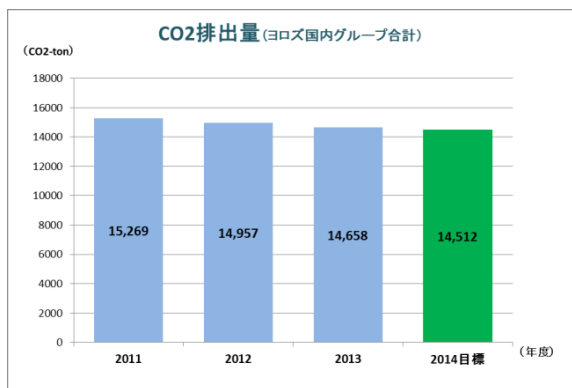
活動の結果

全ての項目での目標は過達した。

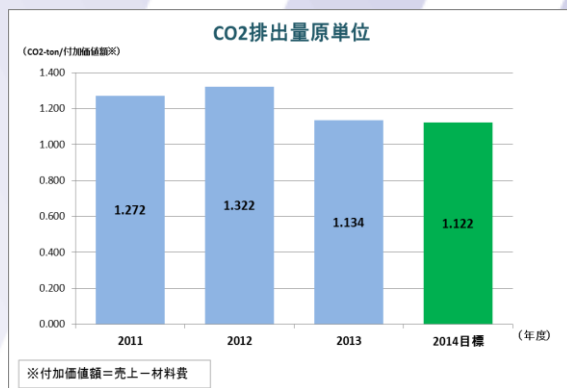
2013年度環境目標と実績

目標名	目標値	結果	コメント
ISO14001認証の継続	認証時の指摘	○ ゼロ	観察事項があったものの、指摘等はなく、継続認証出来た。
省エネルギー CO2排出量：1%削減	排出量原単位 60.81CO2-kg/人	○ 51.04 CO2-kg/人	節電、省エネパトロールにより、徹底したことにより、目標を達成した。
廃棄物削減 排出量原単位削減：1%削減	排出量原単位 1.511kg/人	0.97kg/人	廃棄物のリサイクルの推進により目標を達成した。
3R優良事業所	一般ごみ排出量 300g/月以下	258g/月	分別の徹底によるリサイクルの促進を実施した。
地域社会との共生、地域環境保全	環境保全への参加	○	地域イベントへの参加が定着した。

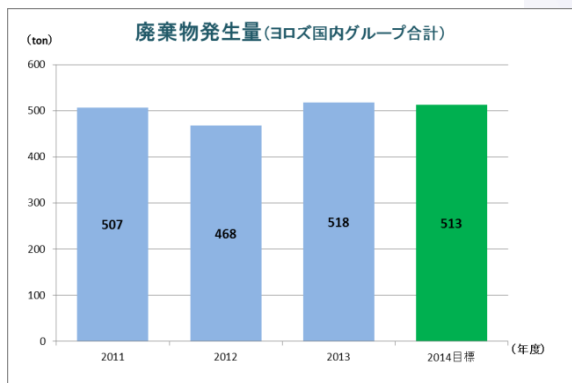
C02排出量



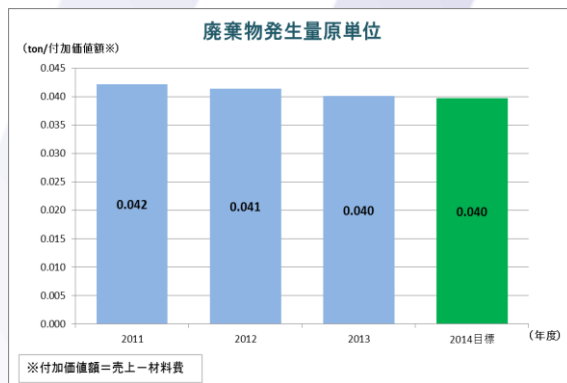
C02排出量原単位



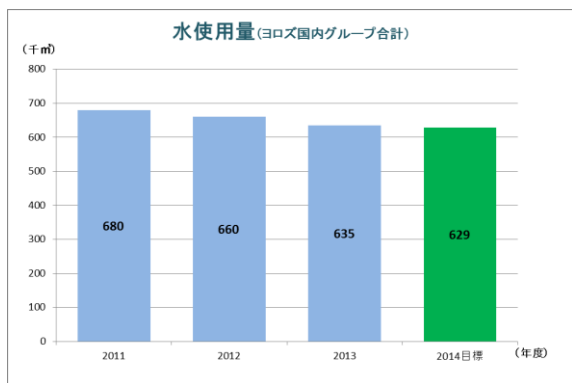
廃棄物量



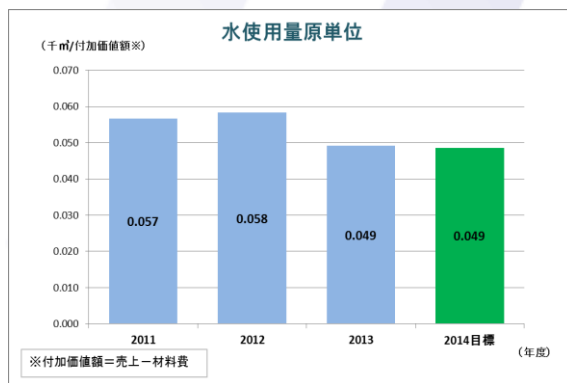
廃棄物原単位



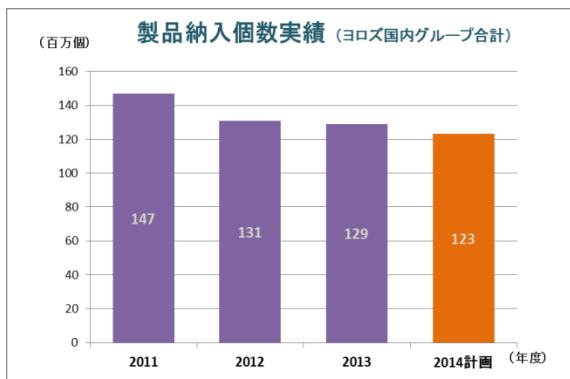
水使用量



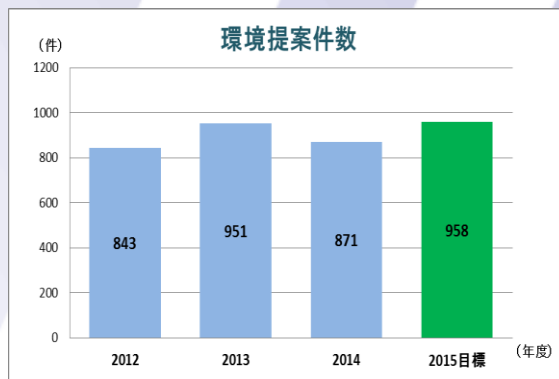
水原単位



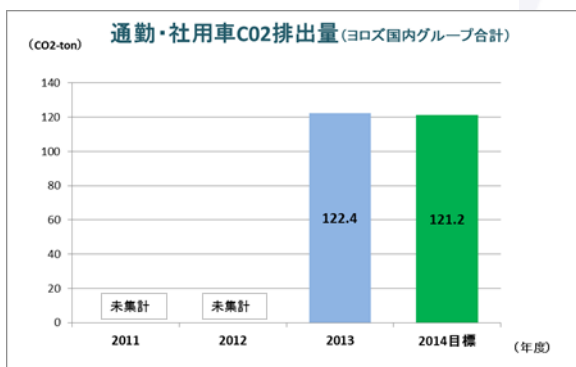
納入個数（国内）



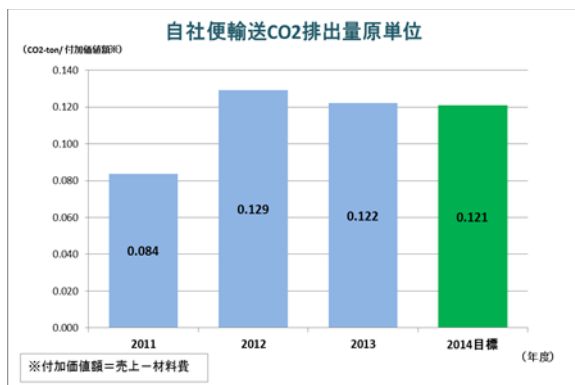
環境提案件数



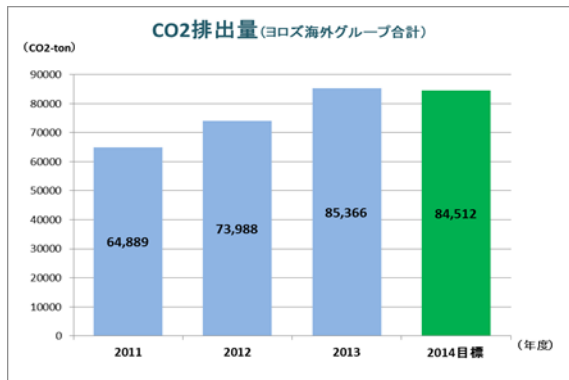
通勤、社用車に関する排出量



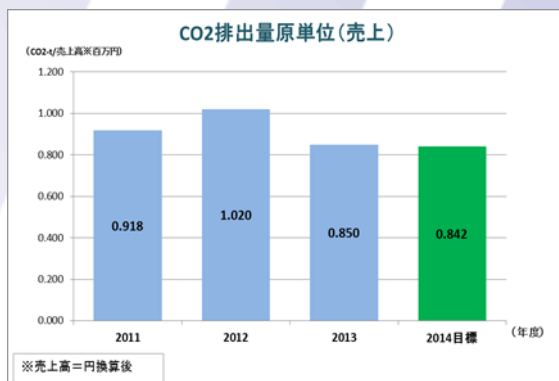
物流データ



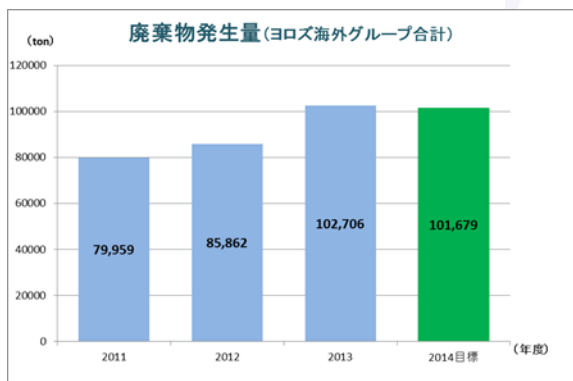
海外データ CO2排出量



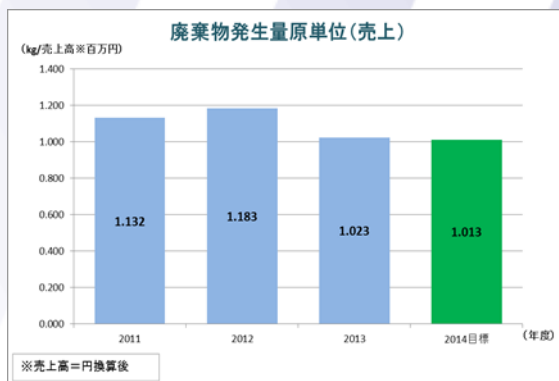
CO2排出量原単位



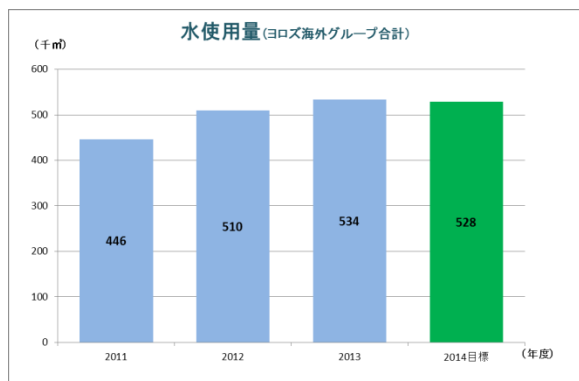
廃棄物量



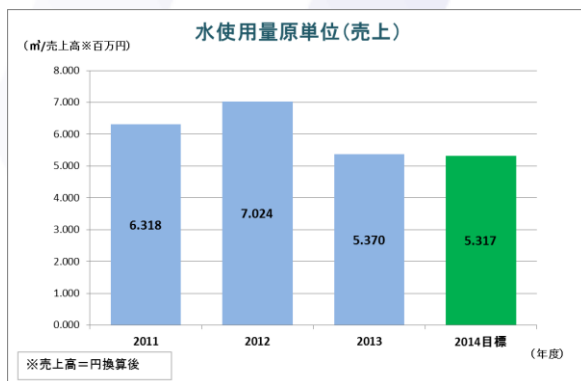
廃棄物原単位



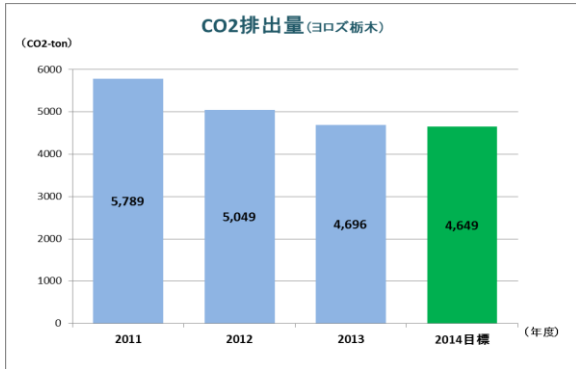
水使用量



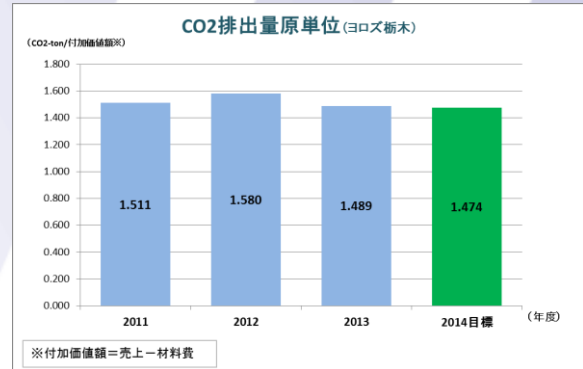
水原単位



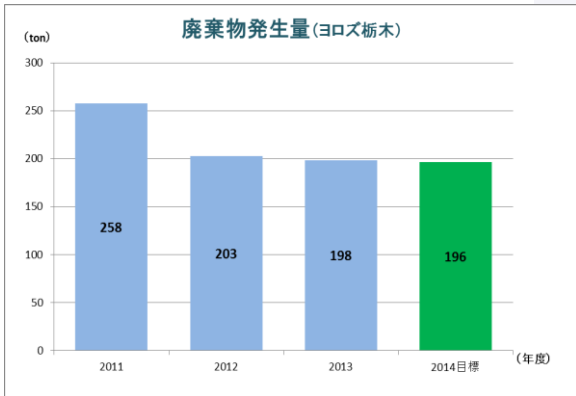
詳細 (ヨロズ 栃木) CO2排出量



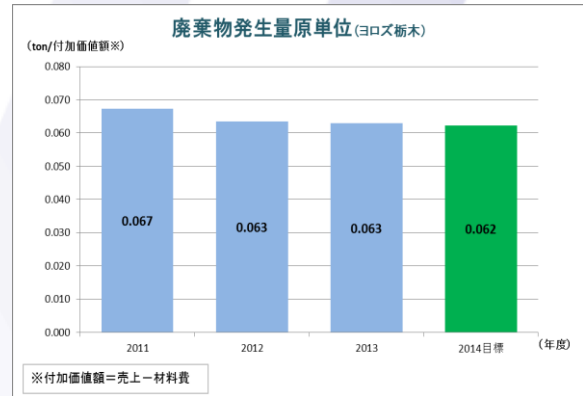
CO2排出量原単位



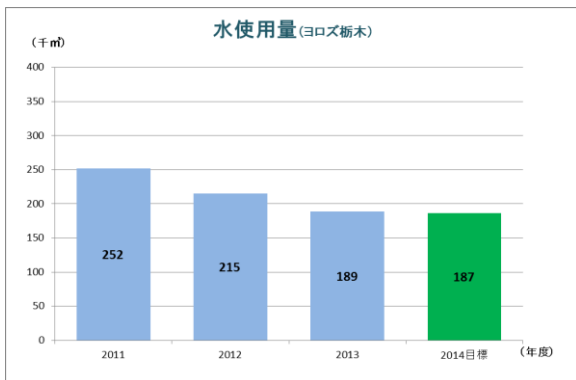
廃棄物量



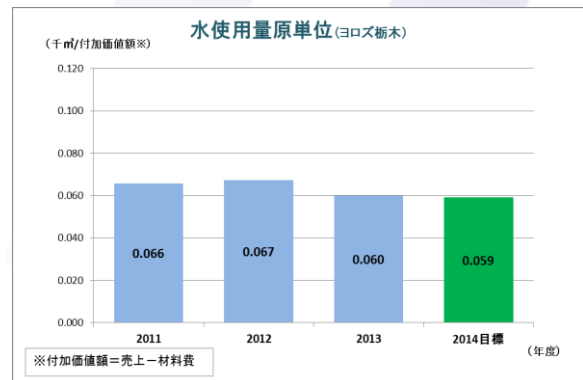
廃棄物原単位



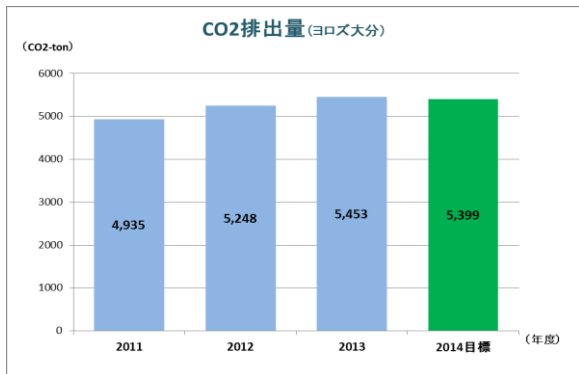
水使用量



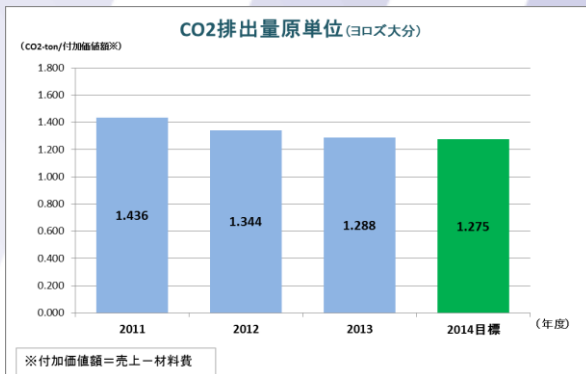
水原単位



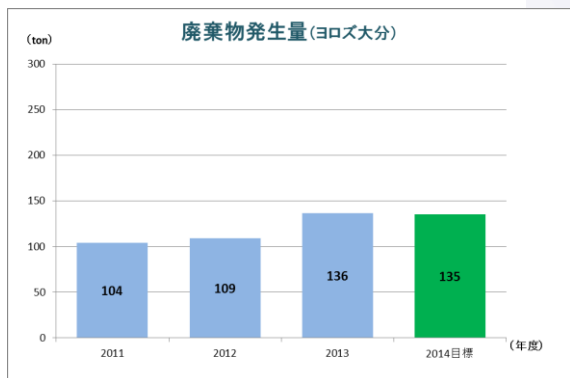
詳細 (ヨロズ大分) CO2排出量



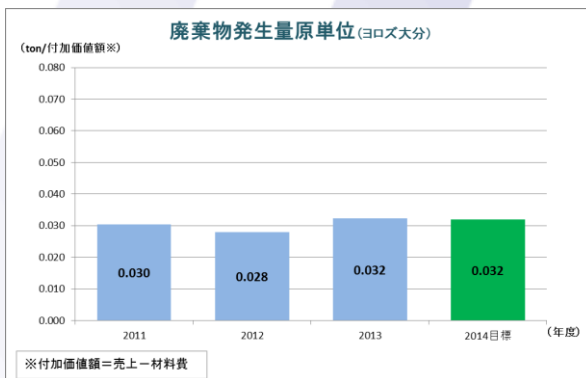
CO2排出量原単位



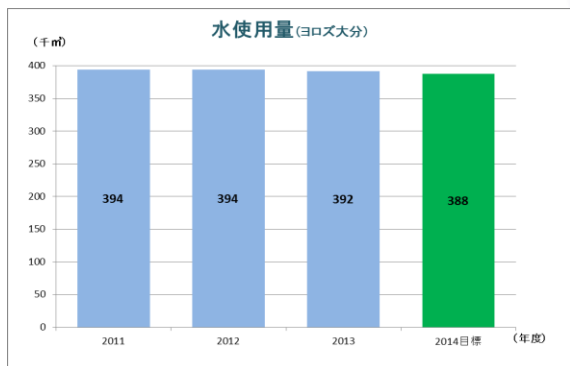
廃棄物量



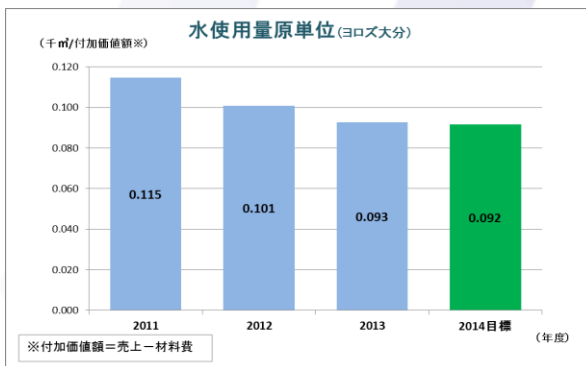
廃棄物原単位



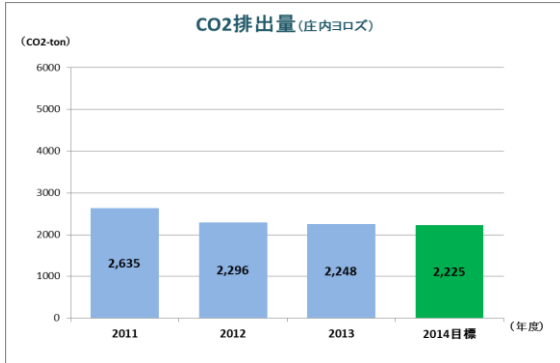
水使用量



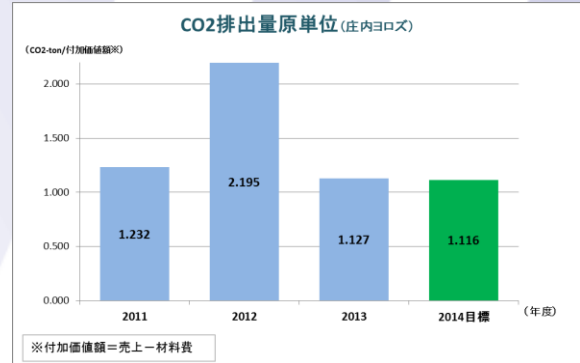
水原単位



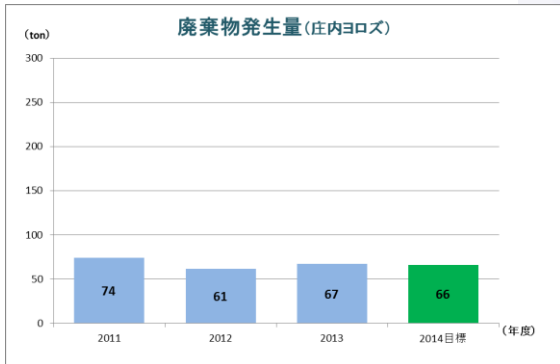
詳細 (ヨロズ 庄内) CO2排出量



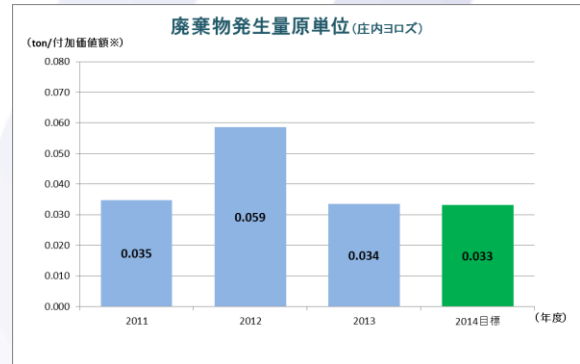
CO2排出量原単位



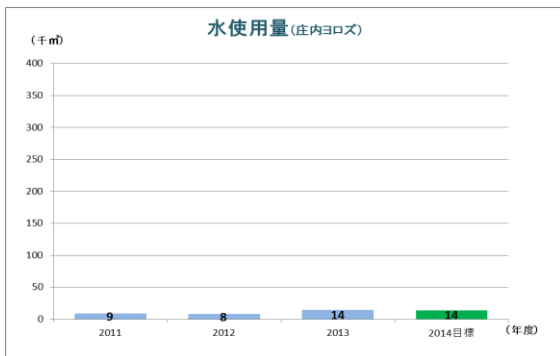
廃棄物量



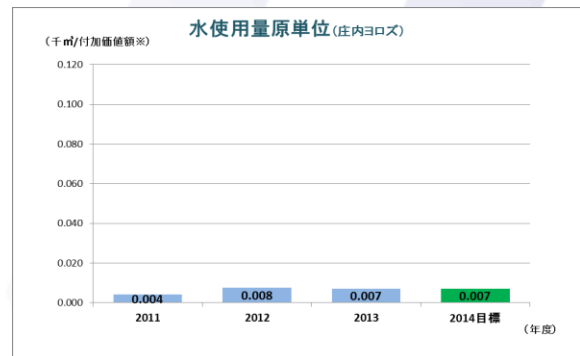
廃棄物原単位



水使用量

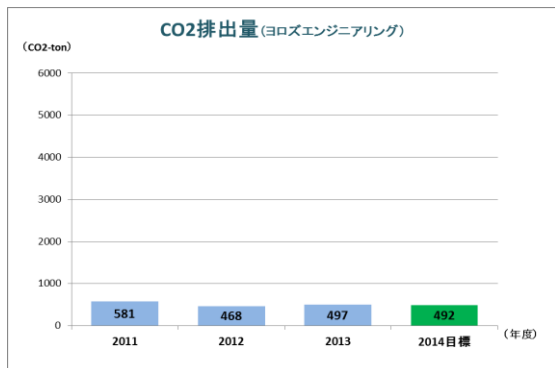


水原単位

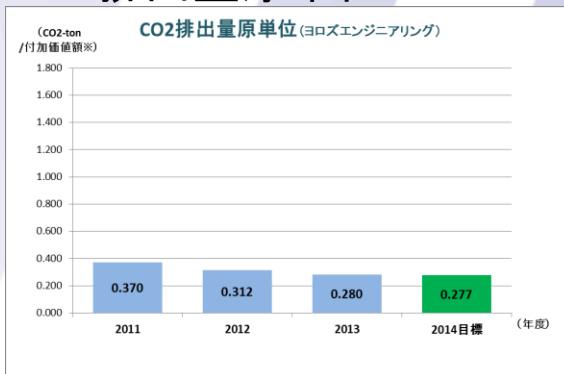


詳細 (ヨロズエンジニアリング : Y E)

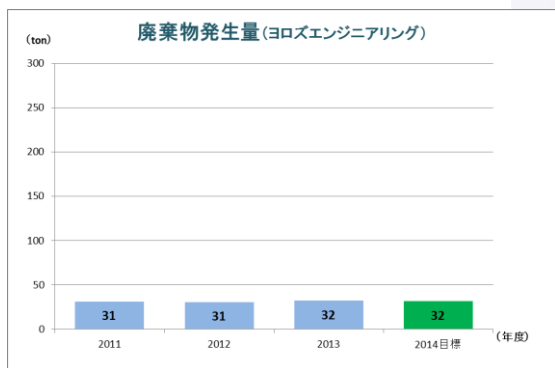
CO2排出量



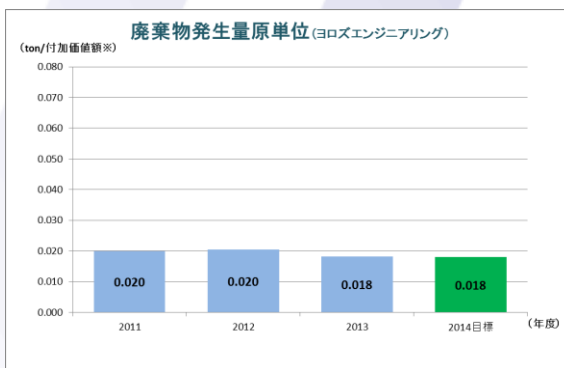
CO2排出量原単位



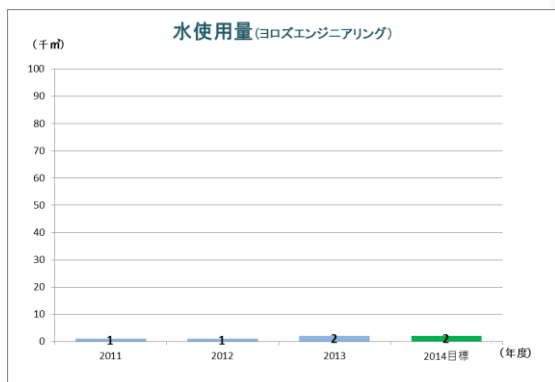
廃棄物量



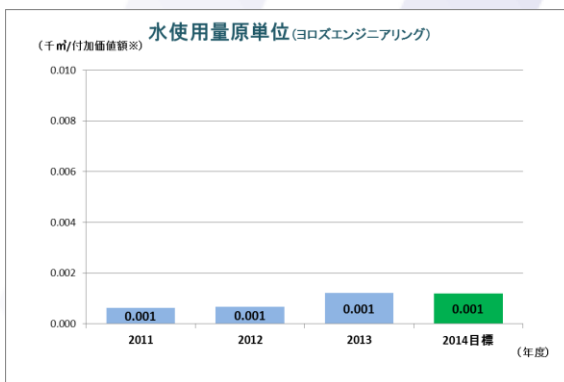
廃棄物原単位



水使用量

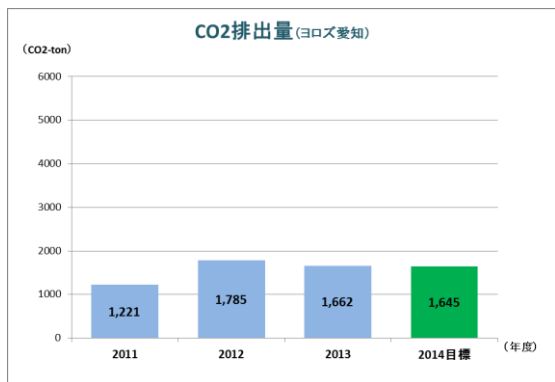


水原単位

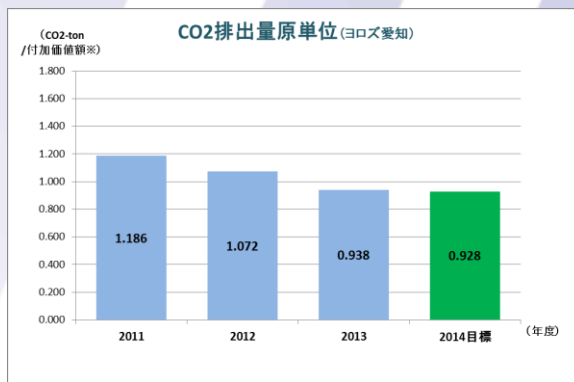


詳細 (ヨロズ愛知)

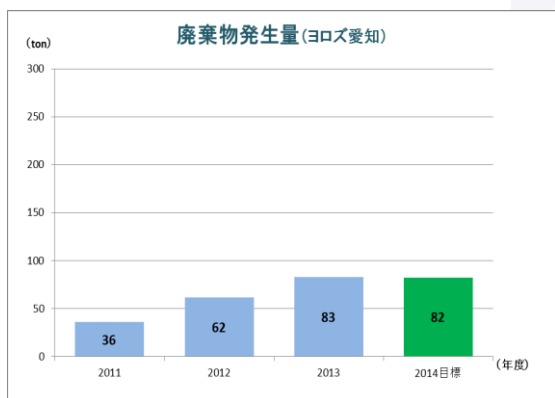
C02排出量



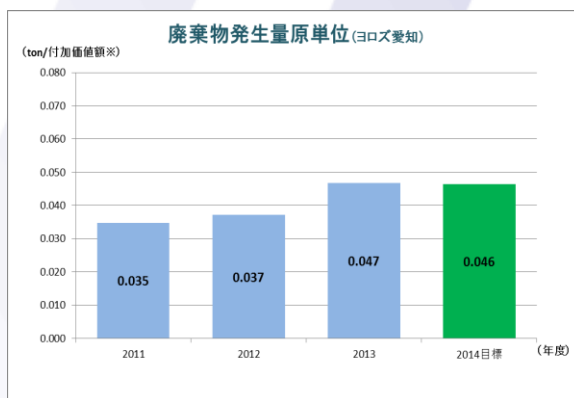
C02排出量原単位



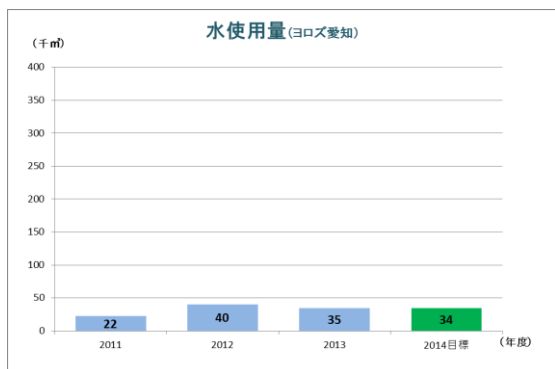
廃棄物量



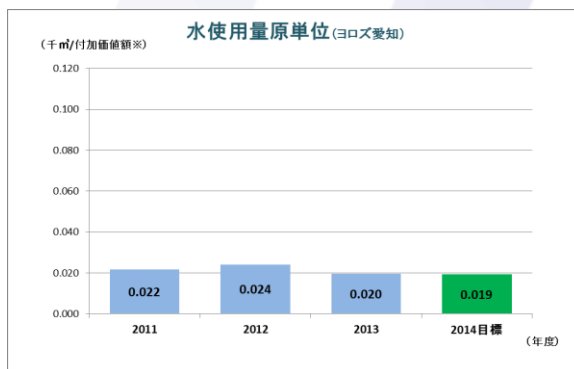
廃棄物原単位



水使用量



水原単位



環境会計

ヨロズでは、事業活動を行うにあたって環境に関するコスト（費用）は以下の通りです。

(株)ヨロズデータ

単位：円

環境保全コスト

分 類		投資額	費用
事業所エリア内コスト	公害防止コスト	0	21,234,526
	地球環境保全コスト	23,300,000	0
	資源循環コスト	110,000	1,052,834
上・下流コスト		0	0
管理活動コスト		0	11,200,080
研究開発コスト		0	264,463,000
社会活動コスト		0	600,000
環境損傷対応コスト		0	0
計		23,410,000	298,550,440
総 計			321,960,440

ヨロズグループ全体データ（ヨロズ含む）

環境保全コスト

分 類		投資額	費用
事業所エリア内コスト	公害防止コスト	0	33,616,496
	地球環境保全コスト	23,300,000	3,752,450
	資源循環コスト	110,000	32,789,760
上・下流コスト		0	9,476,571
管理活動コスト		0	16,398,643
研究開発コスト		0	264,568,120
社会活動コスト		0	1,042,000
環境損傷対応コスト		0	0
計		23,410,000	361,644,040
総 計			385,054,040